

○ 農林水産省
経済産業省 告示第一号

プラスチック使用製品設計指針（令和四年内閣府、財務省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省告示第一号）の規定に基づき、清涼飲料用ペットボトル容器に係る設計認定の基準を次のように定める。

令和七年七月二十四日

農林水産大臣 小泉進次郎

経済産業大臣 武藤 容治

清涼飲料用ペットボトル容器に係る設計認定の基準

プラスチック使用製品設計指針3(2)に規定する設計認定の基準（以下「設計認定基準」という。）のうち、清涼飲料を充填するためのポリエチレンテレフタレート製の容器（以下「清涼飲料用ペットボトル容器」という。）に係るものは、次に掲げるとおりとする。

1 次の表の上欄に掲げる部品の区分ごとに、下欄各号に掲げる要件をいずれも満たすこと。

部品	要件
----	----

<p>ボトル</p>	<p>一 ポリエチレンテレフタレートのみを原料とし、その他の物質を添加していないこと。ただし、ポリエチレンテレフタレート以外の物質を添加したボトルが安全かつ衛生的であつて、再資源化を実施することができれば、この限りでない。</p> <p>二 着色はしないこと。</p> <p>三 把手は、着色していないポリエチレンテレフタレート又は比重一・〇未満のポリエチレン若しくはポリプロピレンを使用すること。</p> <p>四 ボトルに印刷を施さないこと。（賞味期限、製造所固有記号又はロット番号の印字等の微細な表示を印刷する場合を除く。）</p>
<p>ラベル</p>	<p>一 ポリ塩化ビニルは使用しないこと。</p> <p>二 風選又は洗浄等の再生処理の工程においてボトルと分離できること。</p> <p>三 ラベルに用いる印刷用インキがボトルに付着しないこと。</p> <p>四 アルミニウムでラミネートされるラベルを使用しないこと。</p>

キャップ

一 アルミニウム又はポリ塩化ビニルを使用しないこと。

二 比重一・〇未満のポリエチレン又はポリプロピレンを主な原料とするこ
と。

三 ガラス玉又はパッキンを使用する場合は、その取り外し方をラベルに明
示すること。

2 当該容器（ラベル、キャップを除く。）一本当たりの重量（単位は、グラムとする。以下同じ。）が、

次の各号に掲げる場合に応じ、当該各号に掲げる数値を下回ること。

一 あらかじめ殺菌した後、殺菌した内容物を無菌的に及び常温において充填するための容器 当該容器
一本当たりの容量（単位は、ミリリットルとする。以下この項において同じ。）に〇・〇一三九を乗じ
て得た値に、一四・二を加えて得た値

二 耐熱性のある容器（第六号に掲げる容器を除く。次号から第五号までにおいて同じ。）であつて、当
該容器一本当たりの容量が五百ミリリットル以下のもの 当該容器一本当たりの容量に〇・〇一六四を
乗じて得た値に、一六・八を加えて得た値

三 耐熱性のある容器であつて、当該容器一本当たりの容量が五百ミリリットルより大きく、千五百ミリリットル以下のもの 当該容器一本当たりの容量に 0.0235 を乗じて得た値に、 13.3 を加えて得た値

四 耐熱性のある容器であつて、当該容器一本当たりの容量が千五百ミリリットルより大きいもの 当該容器一本当たりの容量に 0.0098 を乗じて得た値に、 33.9 を加えて得た値

五 耐圧性のある容器 当該容器一本当たりの容量に 0.0136 を乗じて得た値に、 17.2 を加えて得た値

六 耐熱性及び耐圧性のある容器 当該容器一本当たりの容量に 0.0178 を乗じて得た値に、 17.7 を加えて得た値

3 当該容器一本当たりの重量のうち、日本産業規格Q14021の七・八・一・一のa)の1)に適合する再生プラスチック、日本産業規格Q14021の七・八・一・一のa)の2)に適合する再生プラスチック及びバイオマスプラスチック（動植物に由来する有機物である資源（化石資源を除く。）を原料とするプラスチックをいう。）の合計の重量の割合が十五パーセント以上であること。

附 則

この告示は、公布の日から起算して六月を経過した日から施行する。